



MINI TRAVEL

# 岩湧山ハイキングin2018



※コロナ前 2018 年のハイキングを取り上げています。



## 「3度目の登山」

2018年は5歳の末娘と3回ハイキングに出かけた。1回目が私市駅から歩いて星田園地の空中ブランコ、2回目が四条畷駅から四条畷神社、飯盛山城跡、野崎観音を経て野崎駅までの行程だった。今回紹介する3回目の登山では、ハードルを上げて岩湧山ハイキングを企画した。

いつものようにススキの綺麗な写真を見せたりして、娘のモチベーションを高める。機嫌が悪いと「やっぱり家にいる」と言い出しかねない。結局、近鉄河内長野駅に降り立ったのは、11時過ぎになり、そこからバスで滝畑ダムへ向かう。

滝畑ダムバス停に到着したのは、13時30分だった。バス停横に吊り橋があり、とりあえず渡ってみる。橋下のずっと下方に川とバーベキュー場が見える。夏に行ってみたいものだ。

滝畑ダムをさらに奥に進み、登山口から岩湧山を目指す。



## 「日没時間との戦いとなった下山」

登っては休み、また登る。ひたすら森の登山道を進むが、ススキの山はなかなか見えてこない。5歳の子どもの忍耐も限界に近づいてきている。「もう少しで着くよ、もう見えたよ」と何度か娘に声をかける。

何度かの声かけを経て、ついにその時が訪れた。娘は嬉々として前方の木々のすき間から見えるまばゆい光に向けて走り始めた。林のトンネルを抜けるとそこは黄金の世界だった。風の谷のナウシカのラストシーンを思い出した。「ラン、ランラランラン」とそのシーンの音楽が脳内でループする。

感動すべき光景をゆっくり楽しみたいところだが、内心時間が気になって仕方なかった。岩湧山の頂上に到着したころは15:30分になっていた。徐々に太陽が西に傾き、辺りが暗くなっていく。ここからが時間との戦いだ。段々暗くなる空を気にしながら、下山の足取りを進めていく。

とうとう登山道から山間の車道に入るところで、ほとんど真っ暗になってしまった。かろうじて道だとわかる地面を「エッホ、エッホ」などと声を掛け合いながら、小走りで下りていく。

娘は「お母さん」と一言だけ泣き言を言ったが、その後は口を閉じてしっかり歩いてくれた。子どもを危険な目に遭わせてしまい、親として責められても仕方ないところだったが、内心救われた。

ようやく、紀見峠駅前の集落まで降りてきたのは17時ごろだった。その頃には完全に日は落ちていて、漆黒の暗闇に電灯と家々の灯りが見えるのみだった。

こうして、末娘との3回目にして最後の登山が終わった。怖い思いをした娘は2度と山に行こうとはしなかった。3回の登山に限らず、水泳でもスケートでも、飽きずに長時間一所懸命に取り組める末娘だ。今は習い事はクラシックバレエ1本に絞ったが、自分が納得するまでとことん頑張ってもらいたい。(八木)

